

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった、心身ともに健康な中学生を育成する。

「生徒行動指針」 ○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	義務教育である小中学校で一番に身に付けさせなければならないことは『生きる力』の育成である。大海原を自らの足で歩む力である。そのために必要な体験の場を、意図的・計画的に提供し、望ましい集団活動を通して自己及び集団の向上を図る意識を育む。また、そのために必要な基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身に付けさせる学校を目指す。
○児童・生徒像	○病気に負けない心身ともに健やかな体を身に付けた生徒 ○習得した知識を実生活に活かすような行動を自ら行い、意欲的に経験を積み上げていく生徒 ○自分の力を地域や家族、学校・学年・学級のために進んで役立てようとする生徒
○教師像	○生徒・保護者・地域の信託に応える教師 ○自らの生き方をもって生徒を導く教師 ○組織として迅速に動くことのできる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- (1) 生徒は元気にあいさつができ、落ち着いた生活を送っている。
- (2) 「ハイオアシス運動」をはじめとした生徒会活動が、良い意味で伝統を継承し、実践されている。
- (3) どの生徒も授業に真剣に取り組み、何よりも授業が楽しいと言っている。
- (4) コロナ禍にあっても、学校行事を工夫して行い、熱心に取り組み、達成感も高い。

2 前年度の成果

- (1) 区学力調査において、3科全体の達成率が61.8%から63.7%と向上した。
- (2) 「SAKURARoom」、「スマイルRoom」を開設し、個に応じた支援を実践した。
- (3) 開かれた学校づくり協議会主催の「サタデースクール」が円滑に運営され、自学自習の場を提供できた。
- (4) 地域浄化活動など地域・家庭・学校が連携して行うボランティア活動が伝統として継承され、生徒に地域の一員としての自覚を生みだしている。

3 前年度の課題

- (1) コロナ禍で授業進度がやや速かったようで、定着に不十分なところが見られ、区学力調査の結果にも表れている。
- (2) 学習した知識が、学力調査や定期考査までで終わってしまい、「知の喪失」に陥っている。
- (3) 集団に適応できず、教室に入れられない生徒が減ってはいるものの、ゼロにはなっていない。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	◎	◎	○	○
2	特別活動の充実とキャリア教育の推進	—	○	◎	◎	○
3	不登校・不適応対応	○	◎	◎	◎	○
4	生活指導の充実	◎	◎	◎	◎	◎

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
各種学力調査の結果向上と家庭学習の定着	令和3年度目標通過率 65.0%		自己評価の際に記入	

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	全教科	通年	<p>【取組内容】 指導案の書式を統一し、導入5分・展開35分・振り返り(まとめ)10分の授業展開を全ての授業で実践する。</p> <p>【ねらい・目的】 各授業における生徒の学びの確実な定着を図る。</p>	<p>生徒による授業アンケート</p> <p>hyper-QUの学習意欲</p>	<p>生徒による授業アンケートにおける「授業がわかる」の項目の肯定的回答が90%以上</p> <p>Hyper-QUの学習意欲アンケートにおける「学校の勉強には自分から進んで取り組んでいる」の項目の肯定的回答が70%以上</p>	自己評価の際に記入		

2 継続	家庭学習の習慣化	全教科	通年	【取組内容】 ・家庭学習ノートを毎日提出 【ねらい】 ・家庭学習の習慣化 【目的】 ・基礎・基本の確実な定着 ・学習の質の向上	生徒による授業アンケート	提出率 90%以上	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
3 継続	JUT	国語 社会 数学科 理科 英語	通年	【取組内容】 ・放課後に30分間の補充学習 【ねらい】 ・基礎学力の定着 ・得点力の向上 【目的】 ・学習のつまずきを解消 ・習得した知識の活用力向上	区学力調査 都学力調査	区学力調査 正答率 国語 60%以上 数学 55%以上 英語 50%以上 都学力調査 全強化において、区平均以上	
4 継続	学習コンテスト	国語 数学 英語	各教科 年1回	【取組内容】 ・国数英の3教科で基礎的な知識の定着を図る 【ねらい】 ・学習意欲の喚起 【目的】 ・成功体験の積み上げ ・自己肯定感の高揚	3科の学力コンテスト	3教科とも1回目での合格率85%以上	
5 継続	サタデースクール	全教科	通年	【取組内容】 土曜授業のない土曜日に自学自習による補習 【ねらい・目的】 自学自習の習慣を身に付けることで家庭学習の定着を図る	サタデースクール参加登録者数と出席状況	生徒登録者数 30名以上 年間延べ参加人数 150人以上	

重点的な取組事項－2		特別活動の充実とキャリア教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感と自己有用感の高揚を図り将来に希望をもつ		Hyper-Q Uと区学力調査の学習意識調査	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒の自尊感情を高める指導の徹底	hyper-Q Uにおける非承認群20%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員の学級経営力の向上 ・各学年で統一した学級活動の実践 	自己評価の際に記入		
自己有用感の高揚	Hyper-Q Uにおける「学級との関係」の設問16の肯定的回答が65%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動の活性化による役割の自覚 ・生徒相互の良さを認める活動の充実 			
将来への希望	区学力調査の学習意識調査において、「将来の夢がある」という回答が70%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動においてキャリア発達を促す教育の実践 			

重点的な取組事項－3		不登校・不適応対応			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校出現率の減少		不登校出現率4.5%以下	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校・不応適生徒を受け入れる学級の雰囲気作り	Hyper-Q Uにおける学級満足度70%以上	小中連携研究を通して、9年間を見通した学級活動の充実を図り、学級の中に生徒の居場所を確保するとともに、各学級・学年で生徒の活躍する場を設定し、生徒の自己肯定感と自己有用感を高められる学級経営を全教員ができるようにする。その際、特定の手法にとらわれず、各教員のスキルや学年・学級の実態に即した学級活動を工夫する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		
不登校生徒への対応の強化	不登校出現率5%以下	SC・SSWを活用し、必要な関係機関との連携を図りつつ、生徒の教室復帰を目指す。			
全校体制での不登校・不応適生徒への支援	特別支援委員会年35回以上開催	毎週木曜日の2校時に特別支援委員会を実施し、不登校・不応適生徒の情報の共有化を図る。支援を必要とする生徒への対応は全校体制で行う。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他(学校教育活動全般について)

自己評価の際に記入します。
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。